

誠に申し訳ございませんが、以下の箇所の訂正をお願い申し上げます。

ページ	箇所	訂正前	訂正後
618	Exercise2 7 行目	代替フロンであるハイドロクロロフルオロカーボン (HCFC) は、オゾン層破壊作用は (㊦ 特定フロンよりは弱い ・ ない)。	ハイドロクロロフルオロカーボン (HCFC) は、オゾン層破壊作用は (㊦ CFC よりは弱い ・ ない)。
642	問題 12 解説 2	代替フロンであるハイドロクロロフルオロカーボン (HCFC) は、分子内に塩素原子を含むため、特定フロンに比べ弱いながらもオゾン層破壊を起こす。	特定フロンであるハイドロクロロフルオロカーボン (HCFC) は、分子内に塩素原子を含むため、特定フロン のクロロフルオロカーボン (CFC) に比べ弱いながらもオゾン層破壊を起こす。
	問題 13 解説 4 行目	代替フロンのウ (CHF_2Cl) となる。	特定フロンのウ (CHF_2Cl) となる。
	問題 14 解答	1・3	解なし
	問題 14 解説 1	○	×
	問題 14 解説 1 2 行目	そのうち Cl を含み、H を含まないものを特定フロンといい、H を含むものを代替フロンという。	さらに、先進国で 2020 年をもって生産・消費が全廃されることとなっているハイドロクロロフルオロカーボン (HCFC) は、特定フロンへと移行した。特定フロンには、H を含まないクロロフルオロカーボン (CFC) や H を含むハイドロクロロフルオロカーボン (HCFC) がある。
	問題 14 解説 3	○	×
	問題 14 解説 3 1 行目	1995 年をもって特定フロンは全廃され、開発途上国でも 2010 年をもって全廃された。	1995 年をもって クロロフルオロカーボン (CFC) は全廃され、開発途上国でも 2010 年をもって全廃された。しかし、 ハイドロクロロフルオロカーボン (HCFC) は、先進国で 2020 年 をもって生産・消費が全廃されることとなっている。

643	解説 2行目	強い特定フロンの①「クロロフルオロカーボン (CFC)」、代替フロンのうちオゾン層破壊作用がある②「ハイドロクロロフルオロカーボン (HCFC)」	強い①「クロロフルオロカーボン (CFC)」やオゾン層破壊作用の弱い②「ハイドロクロロフルオロカーボン (HCFC)」
	解説 6行目	着実に進めており、特定フロン	着実に進めており、クロロフルオロカーボン
	解説 8行目	また、代替フロンの中でもオゾン層破壊作用がある HCFC については	また、特定フロンの HCFC については
649	問題 26 解説 3	特定フロンの CCl_2F_2 は対流圏で分解されにくい。しかし、水素原子を含む代替フロンの $CHClF_2$ は	CCl_2F_2 は対流圏で分解されにくい。しかし、水素原子を含む $CHClF_2$ は
	問題 28 解説 3	代替フロンの $CHClF_2$ (A) は、H を有することにより特定フロンの CCl_2F_2 (B) よりも	$CHClF_2$ (A) は、H を有することにより CCl_2F_2 (B) よりも
754	4) 室内濃度指針値表 備考欄	・備考なし	・※3) 上表は、平成 29 年 4 月 19 日に開催された第 21 回シックハウス問題に関する検討会で示された新指針値案である。
808	618 ㉔	特定フロンよりは弱い	CFC よりは弱い

また、平成 30 年 4 月 16 日現在設定されている、室内濃度指針値を下表に示します。

化学物質	室内濃度指針値※1)	発生源	症状
ホルムアルデヒド	100 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.08ppm)	合板、接着剤、防カビ剤	ヒト吸入暴露における鼻咽頭粘膜への刺激
トルエン	260 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.07ppm)	油性ラッカー、塗料、接着剤	ヒト吸入暴露における神経行動機能及び生殖発生への影響
キシレン	870 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.20ppm)	塗料、芳香剤、接着剤、油性ペイント	妊娠ラット吸入暴露における出生児の中樞神経系発達への影響
パラジクロロベンゼン	240 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.04ppm)	防虫剤、防臭剤	ビーグル犬経口暴露における肝臓及び腎臓等への影響
エチルベンゼン	3800 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.88ppm)	塗料、殺虫剤	マウス及びラット吸入暴露における肝臓及び腎臓への影響
スチレン	220 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.05ppm)	断熱材、浴槽ユニット、畳、包装材	ラット吸入暴露における脳や肝臓への影響
クロルピリホス	1 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.07ppb) 但し、小児の場合は 0.1 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.007ppb)	殺虫剤、防アリ剤	母ラット経口暴露における新生児の神経発達への影響及び新生児脳への形態学的影響
フタル酸ジ- <i>n</i> -ブチル	220 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.02ppm)	塗料、顔料、接着剤	母ラット経口暴露における新生児の生殖器の構造異常等の影響
テトラデカン	330 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.04ppm)	灯油、塗料	C8-C16 混合物のラット経口暴露における肝臓への影響
フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	120 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (7.6ppb) ※2)	壁紙、床剤、各種フィルム、電線被膜	ラット経口暴露における精巣への病理組織学的影響
ダイアジノン	0.29 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.02ppb)	殺虫剤	ラット吸入暴露における血漿及び赤血球コリンエステラーゼ活性への影響
アセトアルデヒド	48 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.03ppm)	防カビ剤、溶剤、ペット臭、タバコの煙	ラットの経気道暴露における鼻腔嗅覚上皮への影響
フェノブカルブ	33 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (3.8ppb)	殺虫剤（農薬）	ラットの経口暴露におけるコリンエステラーゼ活性などへの影響